4．Angioedema with Eosinophiliaの一例

内科学第三：山本 忍 小林真人 露口 都 久保隆之 松村康広 福田俊明 対馬裕典 新妻知行 伊藤久雄

症例：66才女性。主訴：顔面腫脹。現病歴：Steroid依存性難治性気管支喘息（非ｱﾄﾋﾟｰ型，PSL 5mg，BDP400μg/day）にて外来通院加療中、左眼瞼結膜の充血出現，点眼を続けたが、充血は右眼にも広がり中止後も顔面浮腫が急激に出現するため本院内科に入院。現症：身長146cm、体重46.5kg、呼吸音清、顔面腫脹の他、体幹部に環状紅斑を認む。検査：WBC11600，Eo34.5%，IgE 265IU/mlEKG，胸部 X-p，胸腹部 CT異常なし。内服、点眼薬のDLST，ｽｸﾗｯﾁﾃｽﾄは陰性、末血骨髄像でEoに異型性なし。経過：内服薬中止し、PSLのみ10mgに増量。Eoは、6病日目に、12075/μl（WBC21000，Eo57.5%）とpeakを示し、以後漸減、1ヶ月後軽快退院。考察：Gleich らの報告した"Episodic Angioedema Asociated with Eosinophilia"の臨床像は、臓器病変を伴わず、典型的なHyper Eosinophilic Syndrom とは異なる病像を呈する。本症例は他の報告例と比べ発症年齢が高く、体重増加もなく、IgM正常といった点で異なっている。

5．CAP System の評価と有用性について

（内科学第三）久保隆之　松村康広　奥沢博美
露口都子　福田俊明　山本　忍
対馬裕典　新妻知行　伊藤久雄

気管支喘息を主とする患者51例を対象とし CAP System にてｱﾚﾙｹﾞﾝ特異IgE抗体を測定し、RASTとの比較検討を行った。11種のｱﾚﾙｹﾞﾝにおいて CAP System と RASTの一致率は、88.9%～100%と高値を示した。CAP System は RASTと良好な相関を示すが、CAP System の測定値がRAST に比べて高めに出る傾向があり、特に RAST陰性でCAP System 陽性例が11例認められた。 CAP System のｽｸﾗｯﾁﾃｽﾄとの陽性一致率は、RAST より良好であった。CAP Systemは、ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃﾞｨｽｸ に代わる蛋白結合能の大きなｽﾎﾟﾝｼﾞ状固相を採用することにより、臨床的感度の向上、測定範囲の拡大が得られ、また検査時間についても大幅に短縮されている。今回の結果からも、ｱﾚﾙｹﾞﾝ検索に際し、従来の RAST より CAP Systemが有用であると考えられた。

6　ラット実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎における末梢血および眼内浸潤リンパ球の表面マーカー解析

眼科学　土方　聡

ルイスラットに網膜抗原であるIRBPを完全アジュバンドと共に接種することで実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎(EAU)が発症する。EAUの発症には細胞性免疫が重要な役割を果たしており、その発症機序を解明することを目的として従来より末梢血リンパ球サブセットの変動や眼内浸潤リンパ球の免疫組織化学的検討がなされてきた。今回我々はフローサイトメトリーを用いてEAUにおける末梢血リンパ球サブセットの変動をより詳細に解析しまた眼内浸潤リンパ球の表面マーカー解析を行なった。末梢血においては抗原接種後4日目および11日目では接種前にくらべCD4/CD8比は有意に増加していた。また、炎症の極期である接種後14日目の眼内浸潤リンパ球は同日の末梢血に比べCD4陽性細胞の割合が増加していたγδT細胞は末梢血、眼局所とも変化はないが、眼内にNK細胞の存在も認められることから非MHC拘束性組織障害の関与も示唆された。

7.　アトピー性皮膚炎と黄色ブドウ球菌

（皮膚科）　小澤ゆかり，平田雅子，小宅慎一，
坂崎由朗，山城将臣，加藤雪彦，
小林早由美，宮内　恵，宮野径彰，
徳田安章

（目的）アトピー性皮膚炎（AD）患者における黄色ブドウ球菌（黄ブ菌）の諸検討。（方法）①皮疹別検出率及びそのファージ型。②特異IgE（RAST），IgG_4（ELISA）抗体（Wood46株に対する）。③パッチテスト：患者分離菌，209P株，Wood46株を不活化。菌数約$10^7/cm^2$で菌体wholeと破砕菌の2種。被検部位は15回tape stripping有無の2系列。48時間貼付。（結果）①無疹部検出率40.7，紅斑部88.4，苔癬化部90.9，びらん部90.1，感染部100%。ファージ型は皮疹部，感染部では多彩だが，無疹部ではⅡ群を欠いた。②特異IgE，IgG_4抗体とも健常人と有意差なし。③パッチテスト：健常人は全例陰性。ADと他の皮膚疾患では有意差なし。以上より黄ブ菌がⅠ型及びⅣ型アレルギーの抗原として働いている可能性は少ないと思われた。